

～特定外来生物の防除による 地域農業の保全～

—土壤浸食防止機能—

が ぶ 我部地域資源保全の会

我部地区は、沖縄本島北部に位置する屋我地島にある、サトウキビ、ウコン、パイン、海ぶどう、花き等を主に栽培している農業地域である。

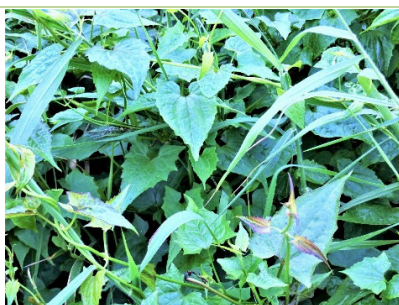
「我部地域資源保全の会」は農村環境の良好な保全と質的向上を目的として平成19年に設立された組織である。本組織は、特定外来生物の駆除や「アブシバレー」と呼ばれる伝統文化の継承などに取り組み、地域の大切な農業・文化を後世につなげる取組を行っている。



沖縄県名護市



ハーベスタでの
サトウキビの収穫



特定外来生物
「ツルヒヨドリ」



除草剤の散布作業

【土壤浸食防止】

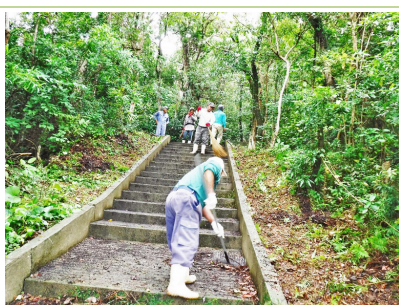
本地域では、つる性植物の特定外来生物「ツルヒヨドリ」がサトウキビに絡まることで出荷（移動）ができないなど収穫・運搬作業に支障をきたし、地域農業の課題となっていた。このため、本組織では多面的機能支払交付金を活用し、ツルヒヨドリの繁茂を防ぐ除草剤を散布することで、サトウキビの出荷を維持している。対策にあたっては、行政に相談して農作物に影響の少ない除草剤の種類や効果的な散布時期を検討し、地域ぐるみで実施している。この結果、本地域では農業被害が発生せず、営農の継続と耕作放棄地の発生防止につながっている。また、畑に作物があることで、雨や風が直接土に当たらないため、赤土等の土壤の浸食・流出の防止につながっている。

【伝統文化の継承】

4月～6月（旧暦の4月）ごろ、虫が多く現れる時期に合わせて開催する伝統行事「アブシバレー（畔払い）」が区民により執り行われる。本行事は、御嶽（うたき）と呼ばれる拝所の清掃や区内の草刈り清掃を終えたあと、芭蕉の葉で作った舟に虫を乗せて海に流すという行事で、その年の害虫による作物被害の減少と五穀豊穡という農家の願いが込められている。農家をつなぎ、地域としての農業を築く文化が受け継がれている。【令和2年度作成】



ツルヒヨドリ駆除後の
サトウキビ



区民が協力して行う
御嶽の清掃



海に流す虫舟に
手を合わせる区民